

報告1 酒々井町総合交通政策会議の設置について



子どもたちや高齢者などが安全に通行できる交通環境の改善へ



総合交通政策会議を設置しました

町では、町内の交通事情等を把握し、本町の円滑な交通と歩行者などの安全な通行等、交通環境の改善に向けた対策案を審議するため、酒々井町総合交通政策会議を設置し、第1回目の会議を6月3日に開催したところです。

この会議では、酒々井インターチェンジの開設及び酒々井南部地区新産業団地における大型商業施設の開業に伴い、町内における交通量が増加している状況のなか、交通の阻害箇所等を抽出するなど、町の現状を把握するとともに、子どもたちや高齢者などが安全に通行できる交通環境の改善に向け、対策案などを検討し、順次取りまとめていく予定です。

組織については、副町長を委員長とし、道路管理者である印旛土木事務所、交通管理者である佐倉警察署の担当課長並びに町内の交通事情等に特に精通しており公的機関である佐倉交通安全協会酒々井支部の代表、併せて庁内関係課長を含めた委員構成により検討していきます。

今後、会議のなかで、地元の自治会や関係者の皆様のご意見等を伺うなどしながら、当町の円滑な交通及び町民が安全に通行できる交通環境の改善に向け、当会議を有効に活用していきたいと考えています。

報告2 酒々井町地域福祉計画の策定について

**地域福祉
計画策定**

町民 事業者 団体 町 社会福祉協議会



緊密なネットワークで推進します



このたび酒々井町では「みんなで創ろう ～助け合い・支え合う 福祉の町 酒々井～」を合言葉に平成25年度から5カ年を計画期間とした「酒々井町地域福祉計画」を策定しました。本計画は、社会福祉法第4条に基づく行政計画であり、行政と地域住民、また、その他社会福祉に関わる全ての関係者が協働して、酒々井町の地域福祉を総合的・計画的に推進するために定めたもので、社会福祉協議会が住民と一緒にあって具体的に取り組む「酒々井町地域福祉活動計画」と一体的に策定しました。

これからの地域福祉は公的機関による施策やサービスだけでなく住民、福祉関係団体、事業所などが地域と係わる活動や地域互助による取り組みが必要となります。本計画の策定にあたっては、町民公募の方や社会福祉関係団体、学識関係者の方々に酒々井町地域福祉計画策定員会委員として計画策定に参画いただきました。本計画を推進していくためには、町民、事業者、関係機関、団体、町、社会福祉協議会の「協働」による取り組みが不可欠であることから緊密なネットワークを構築して推進していくこととしています。

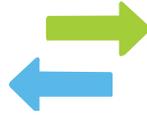
報告3 災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定の締結について

災害発生時

要援護者の福祉避難所



エコトピア・酒々井
[社会福祉法人 鼎]



酒々井町

協定を締結

災害発生時における災害時要援護者の支援については、酒々井町地域防災計画を上位計画として、酒々井町災害時要援護者支援計画を策定し、避難支援体制の整備に努めているところです。このような中において、不時の災害発生時に要援護者が避難を余儀なくされた場合、災害時要援護者については身体介護や健康相談等の特別な配慮が必要であることから、平時から、安心して避難生活ができる福祉避難所を整備していくことが重要であると考えています。

このため、町では、平成25年5月30日、酒々井町役場内において、特別養護老人ホームエコトピア酒々井を設置・運営する社会福祉法人鼎（かなえ）と、災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定を締結しました。

協定の内容は、管理運営、費用等の負担、情報伝達体制の整備、物資調達及び介護者の確保、個人情報の保護など13条から成っており、一層の地域の安心安全体制の強化に資するものと考えています。



報告4 風しん予防接種費用の一部助成について



風しんのピークは ☀️ 夏です！

予防接種費用の一部を助成します



風しんの流行状況を踏まえ、特に重篤な影響を及ぼす可能性のある妊婦への感染の拡大を防止するための緊急対策として、このたび、町では、予防接種費用の一部を助成することとしました。

対象者は18歳以上50歳未満の方のうち、妊娠を予定または希望する女性とその夫(未婚の場合も含む)、妊婦の夫。

助成額は、接種金額の概ね半額で、麻しん風しん(MR)混合ワクチン5,000円、風しん単抗原ワクチンの場合は3,000円をそれぞれ一人1回まで。

助成期間は5月1日から平成26年3月31日まで。ただし、4月1日に遡って既に接種済みの方についても対象としました。

風しんのピークは例年夏頃のため、対象となる方は、なるべく早くワクチン接種を受けていただきたいと思います。

報告5 酒々井南部地区のまちづくりについて



H25.4.10 酒々井インターチェンジ開通

H25.4.19 酒々井プレミアム・アウトレット開業

酒々井南部地区
まちづくり
状況報告

グランドオープンから18日間で
約87万人が来場

酒々井プレミアム・アウトレット早期拡張の可能性も…

酒々井IC通行量 1日あたり約1万1千台

地域活性化インターチェンジとして酒々井インターチェンジが4月10日に開通しました。これに先立ち、4月5日には酒々井インターチェンジへのアクセス道路（4車線の町道墨・七栄線）が完成し、国道296号から県道77号（富里酒々井線）とを結ぶ約3キロが開通しました。

この酒々井インターチェンジとアクセス道路の開通により、交通アクセスが一段と向上することから、地域経済の活性化などを期待しているところです。

酒々井インターチェンジの通行量は、4月19日の「酒々井プレミアム・アウトレット」開業から5月6日のゴールデンウィーク終了までの間に約19万8千台、1日あたりに換算すると約1万1千台の通行があったとネクスコ東日本から聞いています。

121店舗最大店舗数でオープン

そして、4月19日には、三菱地所・サイモン株式会社の運営する「酒々井プレミアム・アウトレット」に121店舗が出店し、開業時としては最大の店舗数で、全国で9番目、関東エリアでは、御殿場、佐野、阿見に次ぐ4番目の出店としてグランドオープンしました。



JR・京成酒々井駅利用者は5万8千人（18日間）

来場者は、オープンからの3日間で13万5千人、ゴールデンウィーク終了の5月6日までの18日間で約87万人が訪れ、その内京成JR酒々井駅利用者は5万8千342人であったと聞いています。

「酒々井プレミアム・アウトレット」の開業にあたり心配していましたが交通渋滞については、開業当初はメインルートとなる国道296号や国道51号など想定を超える渋滞が発生したものの、事業者による誘導看板や誘導員

の配置により、来客車の生活道路への流入による影響は少なかったと思われます。

現在、日曜祝日に渋滞が多少発生しているものの、来場車と退場車の分散等により、開業当初のような交通渋滞は発生していない状況です。

酒々井POを旗艦店に早期拡張へ ー隣接22haを落札ー

新聞報道によりますと、三菱地所・サイモン株式会社の山中社長は、成田空港から車で約10分、都心から約50分という好立地を武器に「旗艦店に育てたい」とし、すでに隣接する周辺UR都市機構所有地を増床用の土地として約22ヘクタールの借地権を落札しており、早期の拡張を目指すとしています。

今後もアウトレットの交通対策には、関係機関と連携・調整を図り万全を期して対応していきたいと考えております。

旗艦店(きかんてん):各地に出した同系列の店の中で、そのブランドを代表して中心的な存在となる店。

町内の特産品・飲食店など問い合わせ多数

また、プレミアム・アウトレットの集客効果を活かすため、町の観光物産等を広く展示紹介する情報発信コーナーを設け、町のイメージアップと中心市街地への誘客を図ることを目的に、同施設のフードコート内に設置した「酒々井コミュニケーションセンター」の開所式を「酒々井プレミアム・アウトレット」のグランドオープンと同日の4月19日に行いました。

同施設の来場者につきましては、開業から5月6日のゴールデンウィーク終了までに1万6千13人の来場者が訪れ、町内の特産品・観光スポット・飲食店などの問い合わせが数多くありました。



ハーブガーデン来園者も46.7%増

町内への誘客の状況では、飲食店等については、お客様が増えているとの声が聞こえてきております。特に「しすいハーブガーデン」の来園者数で申し上げますと、4月20日からゴールデンウィーク終了までで対前年比46.7パーセント(約570人)の増加があったことからアウトレット効果が出ているのではないかと感じていますので、今後も「酒々井コミュニケーションセンター」の活用や町ホームページにより情報発信に努め、町の活性化につなげていきたいと考えております。